



## イスラエルと共に40年間 - イエスと共に40日間

ジャン・ペンケレシ神父

この3月6日に、灰の水曜日をもって四旬節に入ります。40日間！なぜ40日間？旧約時代に、イスラエルはエジプトで奴隷として過酷な労働を課せられていました。神はモーゼを遣わして脱出させ、紅海を渡らせて自由の身にされました。そしてシナイ山でご自分を唯一の神・ヤーウェ（「私はある」）として知らせ、十戒に基づいて彼らと契約を結び、荒れ野を通して約束の地に向かわせられました。

その旅は40年間もかかりました！なぜでしょうか。体は自由になっても、心は奴隷の時代の欲望・考え方を捨てることができず、まだ自由でなかったのです。水、食べ物が不足する時、神に頼らず助けを求めず、不平・不満を言いました。それで神は、エジプトを出た二十歳以上の人が死ぬまで、約束の地に入れぬ、と告げられました。

それは昔のことで、私たちと無関係でしょうか。そうではありません。

「これらのことは前例として彼らに起こったのです。それが書き伝えられたのは、時の終わりに直面している私たちに警告するためなのです。」（1コリント10章11）

私たちは新しいイスラエルです。信じる前には本当の神を知らず、誤った人生観と様々な欲に支配されて、靈的にエジプトの闇でした。神は招いて、新しいシナイ山で御言葉によってその愛と救いを知らせ、永遠の命の約束を与え、私はその愛に応えて、神に、生涯すべてを超えて愛する約束をして神と契約を結びました。洗礼を受けて聖霊を授けられ、新しい律法、神の愛を心の板に記されました。自己中心だった私は神を喜ばせようとする新しい自分に気づいたでしょうか。

「キリストと結ばれる人はだれでも、新しく創造された者なのです。古いものは過ぎ去り、新しいものが生じた。」（2コリント5章17）

神の言葉はその言う通りに実現します。「『光あれ。』 こうして、光があった。」疑いなく私は新しい人です。でも、信仰する前の考え方、習慣、気持ちが残っています。（それに気が付かないかもしれないが）。“心を尽くして神を愛しなさい”：全てを神から頂いたのに感謝せず、自分のものとして誇り、日曜日に感謝の祭儀を怠ります。“どんなことにも感謝しなさい”、“重荷を主に委ねよ”：問題・苦しみを神に委ねず、感謝しないで、不平・不満を言い、落胆・失望しています。“隣人を自分のように愛しなさい”：人に怒る・人を憎む・赦さない・自分の望みや感情で動いたり話したりしています。

完全に新しい者になるためにどうしたら良いでしょうか。古い自分が戻り、よくない動きが心に起こるとき、まずそれをすぐ捨てることです。続いて関係のある聖書の御言葉を、できるだけ思い出してそれに従うのです。神は、従う者に聖霊を与えられるので（使徒言行録5章32）、聖霊は新しい心を造られます。私を含めて多くの方はそれを、毎日、体験しています。

その古い自分に死ななければ、永遠の約束の地に入ることは出来ません。四旬節は、生涯に続く荒れ野の歩みと戦いに目覚め、新しい出発をするための期間です。

神と共にいる時間をつくり（荒れ野）、御言葉を読んで聖霊の導きと助けを求め（祈り）、食事や娯楽などを減らし（断食）、苦しむ者を助け人々に愛をもって接し（施し）（マタイ6章1-18）、清められて復活祭を迎え、永遠の約束の地へしっかり歩みましょう。